

学校図書館教育グループ研究会

グループ員：緒方 麻美 (花里小学校) 林 美幸 (笹原小学校)
太田 裕子 (瑞穂小学校) 望月 成子 (瑞穂小学校)
大石 愛弓 (昆陽里小学校) 上野 晴子 (撰陽小学校)
坪木 麻侑子 (鈴原小学校)

担当指導主事：塩家 崇生

キーワード：学校図書館 読書力を高める 読書活動

1 研究テーマ

「自ら本を手にする子どもを育てるために」

2 研究内容

(1) ブックリスト研究

子どもたちにとって魅力的な本を学校図書館に置くことで、子どもたちと学校図書館をつなぎたいと考える。そのためには、教師自身が多くの本を知り、蔵書の選定にあたる必要がある。今年度も読書 KoDoMo 新聞の「本屋さんのイチオシ 100 選」に紹介されている本（高学年）を輪読し、交流を行った。



(2) 読み聞かせたい本

本を身近なものとし、読書意欲を高めて自ら本を手にする子どもを育てるために、読み聞かせは有効であると考え。そこで、「秋」「冬」「学年末」に読み聞かせたい本について交流を行った。

(3) 授業研究

瑞穂小学校 太田 裕子主幹教諭による第3学年国語科「詩を楽しもうⅡ」の授業を参観し、年間を通して音読計画を立てる学習形態を学んだ。「わたしと小鳥とすずと」と「山のとっぺん」の2つの詩を並列することで読みを深めさせ、自分の考える詩の魅力を伝えるための音読計画を立てる授業が展開されていった。声に出して表現することを大切にされた授業で、子どもたちが詩を楽しんで読んでいる姿が見られた。また子どもたちが互いに表現し合う中で、読みの深まりも感じられた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 今年度も引き続き、書店員さんが選者となった推薦図書を輪読することで、子どもたちに与える本の幅が広がった。
- ② 今年度は、季節や時期に合わせた読み聞かせたい本について研修を行った。各担当学年に向けた本を選んだが、他学年にも活用でき、実践に取り入れることができた。
- ③ 授業研究や事後研究に参加することで、読書として詩集を楽しませる年間を通じた授業計画や指導の技術等について学ぶことができた。

(2) 課題

- ① 「読書記録」についての交流はできたが、より子どもたちが自分の読書生活を実感できる「読書記録」について検討する必要がある。
- ② 各校の特色を生かした学校図書館づくりや読書活動についての検討を進めていく。
- ③ 国語科授業における関連図書の活用について、具体的な単元を取り上げて研修を行い、授業実践に活かしていく。